

二〇二二年

国語 B入試 試験問題

監督の先生の「始め」という指示があるまで、次の注意をよく読みなさい。

注 意

- (1) 「始め」という指示で、すぐに受験番号を解答用紙と問題用紙の決められたところに書きなさい。  
名前を書くところはありません。
- (2) 問題は(1)ページから(5)ページまであります。
- (3) 試験時間は四十五分間です。
- (4) 答えはすべて解答用紙の決められたところにていねいに書きなさい。
- (5) 印刷の文字がはっきりしないときは、手をあげて聞いてもよろしい。
- (6) 「やめ」という指示で、書くことをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして、机の上に置きなさい。

受験番号

番

名古屋商科大学  
名古屋国際中学校

国  
B④

※ 2022012301



# 国語

一 次の二つの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

文章一

こぼれる利根のみなかみに、  
ひねもす銀の針を垂れ、  
しづかに水に針を垂れ、  
さしぐみきたる冬を待つ。

※ ああ、その空さへもうすくもり、  
かみつけの山に雪くれば、

魚らひそかに針をのみ、  
ま芝は霜にいろづけど、  
ひとり岸辺に針を垂れ、  
来らむとする冬を待つ。

※ かみつけ：現在の群馬県のこと

(萩原朔太郎「冬を待つひと」)

文章2  
鑑賞文

私は、この作品には、**A** 美しさがあると感じました。

6年2組 名国太郎

まず、ここには、( a ) の銀色や、( b ) の灰色、( c ) や霜の白色といった、無彩色の景色が描かれています。このような色は冷たさをイメージさせ、秋から冬に移り変わる冷たい空気さえも感じさせます。次に、ここには一人で ( d ) をしている人と、川の中で息をひそめ

る魚しかいません。自然の中にぽつんと一人きりである様子は、一見さみしさも感じさせるかもしれませんが。

動物が活動を休む「冬」という季節と、詩に描かれた色や風景、そして「待つ」という言葉からイメージされる雰囲気(ふんいき)が重なり合って、**A** 美しさが表現されていると感じました。

(一) **A** には、同じ形容動詞が入ります。考えて答えなさい。

(二) ( a ) ( c ) にあてはまる言葉を、それぞれ詩の中から一字で抜き出して答えなさい。

(三) ( d ) について、詩の中に登場する「人」は何をしていますか。あてはまるものを考えて答えなさい。なお、漢字が分からない場合はひらがなでもよい。

(四) この詩で使われている表現上の工夫について、正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「こぼれる利根の／みなかみに」のように、一行ごとの音数がほぼ七と五で作られているため、詩全体にリズムが生まれている。

イ 「針を垂れ、」や「冬を待つ。」などの体言止めがくり返されていることで、きびしい大自然の迫力が強調されている。

ウ 「山」や「雪」や「魚」などの人間以外のものが人間の動作でたとえられることで、あたたかみが表現されている。

エ 行の初めの音をつなげると別の言葉になるという「折句」が使われており、作者の遊び心あふれる人柄がよく出ている。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

大きな国と、それよりはすこし小さな国とが隣り合っていました。当座、その二つの国の間には、なにごとも起こらず平和でありました。

ここは都から遠い、国境であります。そこには両方の国から、ただ一人ずつの兵隊が派遣されて、国境を定めた石碑を守っていました。大きな国の兵士は老人でありました。そうして、小さな国の兵士は青年でありました。

二人は、石碑の建っている右と左に番をしていました。いたってさびしい山でありました。そして、まれにしかその辺を旅する人影は見られなかったのです。

初め、たがいに顔を知り合わない間は、二人は敵か味方かというような感じがして、ろくろくものもいりませんでしたが、いつしか二人は仲よしになってしまいました。二人は、ほかに話をする相手もなく退屈であったからであります。そして、春の日は長く、うららかに、頭の上に照り輝いているからであります。

ちょうど、国境のところには、だれが植えたということもなく、一株の野ばらがしげっていました。その花には、朝早くからみつばちが飛んできて集まっていました。その快い羽音が、まだ二人の眠っているうちから、夢心地に耳に聞こえました。

「どれ、もう起きようか。あんなにみつばちがきている。」と、二人は申し合わせたように起きました。そして外へ出ると、はたして、太陽は木のごずえの上に元氣よく輝いていました。

二人は、岩間からわき出る清水で口をすすぎ、顔を洗いにまいますと、顔を合わせました。

「やあ、おはよう。いい天気でございますな。」

「ほんとうにいい天気です。天気がいいと、気持ちがいせいです。」

二人は、そこでこんな立ち話をしました。たがいに、頭を上げて、あたりの景色をながめました。毎日見ている景色でも、新しい感じを見る度に心に与えるものです。

青年は最初将棋の歩み方を知りませんでした。けれど老人について、それを教わりましてから、このごろはのどかな昼ごろには、二人は毎日向かい合って将棋を差していました。

初めのうちは、老人のほうがずっと強くて、駒を落として差していましたが、しまいにはあたりまえに差して、老人が負かされることもありました。

この青年も、老人も、いたっていい人々でありました。二人とも正直で、しんせつでありました。二人はいつしようにけんめいで、将棋盤の上で争っても、心は打ち解けていました。

「やあ、これは俺の負けかいな。こう逃げつづけでは苦しくてかなわない。ほんとうの戦争だったら、どんなだかしれん。」と、老人はいつて、大きな口を開けて笑いました。

青年は、また勝ちみがあるのうれしそうな顔つきをして、いつしようにけんめいに目を輝かしながら、相手の王さまを追っていました。

小鳥はごずえの上で、おもしろそうに唄っていました。白いばらの花からは、よい香りを送ってきました。

冬は、やはりその国にもあったのです。寒くなると老人は、南の方を恋しがりました。

その方には、せがれや、孫が住んでいました。

「早く、暇をもらって帰りたいものだ。」と、老人はいいました。

「あなたがお帰りになれば、知らぬ人かわりにくるでしょう。やはりしんせつな、やさしい人ならいいが、敵、味方というような考えをもった人だと困ります。どうか、もうしばらくいてください。そのうちには、春がきます。」と、青年はいいました。

やがて冬が去って、また春となりました。ちょうどそのころ、この二つの国は、なにかの利益問題から、戦争を始めました。そうしますと、これまで毎日、仲むつまじく、暮らしていた二人は、敵、味方の間柄あいだからになったのです。それがいかにも、不思議なことに思われました。

「さあ、おまえさんと私は今日から敵どうしになったのだ。私はこんなに老いぼれていても少佐だから、私の首を持ってゆけば、あなたは出世ができる。だから殺してください。」と、老人はいいました。

これを聞くと、青年は、あきれた顔をして、

「なにをいわれますか。どうして私とあなたが敵どうしでしょう。私の敵は、ほかになければなりません。戦争はずっと北の方で開かれています。私は、そこへいつて戦います。」と、青年はいい残して、去ってしまいました。

国境には、ただ一人老人だけが残されました。青年のいなくなった日から、老人は、茫然ぼうぜんとして日を送りました。野ばらの花が咲いて、みつばちは、日が上がると、暮れるころまで群がっています。いま戦争は、ずっと遠くでしているので、たとえ耳を澄すしても、空をながめても、鉄砲てつぽうの音も聞こえなければ、黒い煙けいりの影すら見られなかつたのであります。老人はその日から、青年の身の上を案あなじていました。日はこうしてたちました。

ある日のこと、そこを旅人が通りました。老人は戦争について、どうなつたかとたずねました。すると、旅人は、小さな国が負けて、その国の兵士はみなごろしになって、戦争は終わったということ告げました。

老人は、そんなら青年も死んだのではないかと思いました。そんなことを気かけながら石碑いしすゑの礎こしに腰をかけて、うつむいていますと、いつか知らず、うとうと居眠りをしました。かなたから、おおぜいの人のくるけはいがしました。見ると、一列の軍隊でありました。そして馬に乗ってそれを指揮するのは、かの青年でありました。その軍隊はきわめて静粛せいじやくで声ひとつたてません。やがて老人の前を通るときに、青年は黙礼もくれいをして、ば

らの花をかいだのであります。

老人は、なにかものをいおうとすると目がさめました。それはまったく夢⑦であったのです。それから一月ばかりしますと、野ばらが枯かれてしまいました。その年の秋、老人は南の方へ暇をもらって帰りました。

(小川未明『野ばら』)

(一) 線部 a、d の語句について、本文中の意味として正しい組み合わせを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア a 十分に b とても

イ c することがなく暇ひま d 心配する

ウ a とても b 十分に

エ c 天気が良く穏やか d 心配する

オ a 十分に b 全く

カ c 天気が良く穏やか d 気にかける

キ a とても b 十分に

ク c することがなく暇ひま d 気にかける

(二) 線部 e 「うとうと」と同じ種類の言葉を、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ガチャン (ガラスが割れた)

イ めーめー (羊が鳴いている)

ウ クタクタ (体が疲れている)

エ ざわざわ (部屋の中がさわがしい)

(三) 線部①「いたっていい人々」とは、どのような人ですか。解答欄に合うように、本文中より八字で抜き出して答えなさい。

(四) — 線部②「将棋盤の上で争っても、心は打ち解けていました」について説明した次の文章の( )にあてはまる言葉を、それぞれ考えて答えなさい。

・( a ) に勝負をしているが、それによって( b ) を深めていくということ。

(五) — 線部③「敵、味方というような考えをもった人」について、なぜそのような考えの人が来る可能性があるのか。正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア お互いの国が利害関係を理由に戦争をしているから。  
イ 誰とでも仲良くできる人は、あまりいないから。

ウ 国も人種も違う人々は、本来分かり合えるはずがないから。

エ お互いが国境を守る兵士という役割を持っているから。

(六) — 線部④について、何を「不思議なこと」と思ったのか。解答欄に合う形で、本文中より三十五字で抜き出し、初めと終わりの三字を答えなさい。

(七) — 線部⑤「殺してください」と老人が言ったのはなぜか。本文中の言葉を使って、簡単に答えなさい。

(八) — 線部⑥「ほかになければなりません」という青年のセリフから、彼のどのような気持ちを読み取れるか。考えられるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 老人を殺しても手柄にならないので、もっと他の場所で手柄を立てようという気持ち。

イ 戦争をしたくはないが、兵士という仕事をしているので仕方なく参加する気持ち。

ウ 国同士が争っていても、友情を築いた老人のことは敵と思えない気持ち。

エ 待ち望んでいた戦争が始まり、たくさん手柄を立ててやろうとやる気になる気持ち

(九) — 線部⑦「夢であったのです」について、次の会話文は生徒たちが、老人が見た夢の意味について話し合っている場面である。( a ) ( b ) ( c ) にあてはまる言葉を、それぞれ考えて書きなさい。

生徒ア「私は、( a ) が老人にお別れを言うために、夢の中へ会いに来たのだと思う。」

生徒イ「それはロマンチックな考え方だね。僕は、青年は実は生きていないのではないかと思うよ。ただ、老人の( b ) 気持ちが夢になったのではないかな。」

生徒ア「確かに、青年が戦争で死んでしまったかどうかは書かれていないね。」

生徒ウ「そもそも、自分は( c ) という残酷なものが引き起こした悲劇を、美しいものとして読むことには反対だな」

生徒イ「でも、それは読む人それぞれだと思うよ。」

三 語句について、次の問いに答えなさい。

(一) 次の四字熟語について、□には漢数字が入る。□に入るものを答えなさい。

- ① □心同体
- ② □鬼夜行
- ③ □方美人

(二) 次の——線部の敬語について、間違っているものは正しい敬語に書き直し、正しいものは敬語の種類を答えなさい。なお、漢字がわからない場合はひらがなで答えてもよい。

- ① 「注文は、先生がいたしますでしようか。」(生徒が先生に向かって)長先生に会った経験を話す)
- ② 「ぼくは、校長先生にお目にかかったことがあります。」(生徒が校長先生に会った経験を話す)
- ③ 「担任の先生は何ておっしゃってましたか。」(親が子どもに向かって)

(これで問題は終わりです。)